

第5回東日本大震災復興支援 ボランティア活動

日 付 : 平成 26 年 9 月 26 日 (金) ~29 日 (月)
場 所 : 宮城県 南三陸町
人 数 : 関西遊商 18 名、東北遊商 18 名、中部遊商 1 名、計 37 名
作業内容 : 1 日目 土嚢作り (漁業支援)
2 日目 石除去作業 (農業支援)

○ 9 月 27 日 (土)、朝 8 時半にボランティアセンターへ集合し、関西遊商・東北遊商・中部遊商で初の合同ボランティア活動を行いました。



○東北遊商 (右側)
高橋一則 理事長
○中部遊商 (真ん中)
林 和宏 理事長
○関西遊商 (左側)
和久田守彦理事長

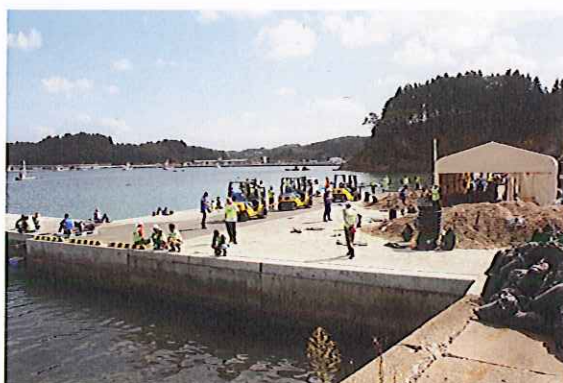
【委員からの報告】

● 9月26日（金）夕方

今回で第5回目となる関西遊商東日本大震災復興支援ボランティア活動に出発です。
これまでと同様、約13時間かけてバスで宮城県の南三陸町へ向かいます。
9月27日、28日の二日間現地で活動してきます！

● 9月27日（土）作業内容

一日目は志津川町水戸辺地区での漁業支援です。昆布養殖に使用するロープの重りになる土俵入れ。単純作業ですがかなりハードな労働でした。（東北遊商＋中部遊商合同作業）



● 9月28日（日）作業内容

二日目のボランティアは在郷地区での農業支援です。
畑の石拾いという地味な作業ですが、昨日の漁業支援と同様に人の手でしか出来ません。
若い人材が流出し過疎化してしまった被災地が再び経済的な復興を果たすためにはどうしても多くの人手が必要になるのです。



● 9月28日（日）帰り

3.11 東日本大震災発生以降も日本また世界の各地で自然災害が起こっています。身近なところでも最近広島県や地元兵庫県が大きな災害に見舞われました。そして今回のボランティア活動中にも御嶽山の噴火という自然災害が発生しました。そうした災害が報道される度、当委員会でも様々な意見が交わされています。被災後間もない所では瓦礫撤去など土木作業に近い重労働が予測されるためボランティアスタッフの士気は自ずと高まります。また不適切な表現かも知れませんがボランティア後の達成感も作業の難易度に比例して高まるのです。色々な意見から次なるボランティア活動の候補地についても具体的な議論が始まっています。

また、我々が3年五度に亘り行ってきた南三陸でのボランティア活動の継続についてもここ最近様々な意見が交わされています。現在南三陸町の被災地には重機が入り、人の手でしか出来ない作業はほぼ無くなりました。実際我々の活動も瓦礫撤去などの土木作業から農業支援、漁業支援など本当の意味での復興支援にシフトしています。

阪神淡路大震災を被災者として自ら経験した総田委員長の熱い思いと我々委員会スタッフの賛同により、三年前、純粋な気持ちでスタートした関西遊商東日本大震災復興支援ボランティアですが、改めて組合が行うボランティア活動としての意義や目的について考えなければならない時期が来たようです。しかしながら、継続するにせよ、しないにせよ、このような良い経験の機会を与えてくれた組合に心より感謝します。